

要点のまとめ

これからの科学・技術研究 についての提言

神経科学者ソーシャルネットワーキングサービス
「事業仕分けコミュニティ」

日本の研究者社会にムダはないか？

神経科学者SNSで30万字近くの議論と30のアンケートを行った結論は…

大量にある！！

現場の知恵をオープンに
結集する仕組みでムダを削減し、
日本の科学・技術研究を強くしよう！



事業仕分けの研究者へのインパクト

▶ オープンに議論がなされたこと

- ▶ 多くの研究者が、科学政策について自分自身も積極的に関わっていくべき問題として、大きな関心をもった

▶ ムダはないかという問いかけがなされたこと

- ▶ 日本の研究者社会のシステムにはたくさんのムダがあり、膨大な額のムダな研究費やムダな労力が浪費されていることを、研究者は知っていた

▶ 研究費は国民の方々の税金から出ているという事実がよくわかったこと

- ▶ 官僚の方々や高名な研究者たちにだけでなく、政治家や国民の皆様に日ごろから説明していくことの重要性を痛感



研究者の反省

－ 現場が提案する研究システムの再構築

▶ 現場の知恵を低コストでオープンに集約し、 科学・技術政策に活かす仕組み

- ▶ 研究関係者の84%は、科学・技術政策の決定や調整のプロセスがよりオープンになることを希望。
- ▶ 研究関係者の88%が、日本でも分野横断的な研究者の組織を立ち上げたほうが良いと回答。
- ▶ 研究関係者の75%が納税者に対して、研究への理解を深めていただく活動をもっと行うべきと回答。情報通信技術を活用した分野横断的な研究者の組織で、より直接的な科学コミュニケーションを。

▶ ムダを減らして研究費（税金）と研究者の時間の 効率的な活用

- ▶ ムダを生む単年度予算。94%の研究関係者が複数年度予算の制度を導入するべきと回答。
 - ▶ 研究関係者の97%が、日本の大学・研究機関にはムダな事務手続きや書類作成が多いと回答。
 - ▶ 海外からの研究関連機器購入時の高額マージンの是正、お古の機械の再利用、高額機器の共同利用の促進、経歴・業績などの一括管理による事務の簡素化、情報通信技術を活用したネット会議で出張を減らす、などでムダを削減可能。
 - ▶ 我が国の知的資産としての若手研究者の頭脳がムダに消費され、使い捨てされている。若手研究者の能力を伸ばし、より社会に活用される仕組みを。
-

